



梅毒の感染が広がっています

梅毒は、主にセックスなどの性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。オーラルセックス（口腔性交）やアナルセックス（肛門性交）などでも感染します。また、一度治っても何度も感染することがあります。感染しても無症状の場合もあり、治療に結びつかないだけでなく、自分の知らない間に他の人に感染させてしまうことがあります。

【主な症状】

- 性器や口の中に小豆から指先くらいのしこりや痛みの少ないただれができる
- 痛み、かゆみのない発疹が手のひら、足の裏、体中に広がる
- 上記の症状が自然に軽快したり、再発を繰り返したりする
- 治療をしないまま放置していると、数年から数十年の間に心臓や血管、脳などの複数の臓器に病変が生じ、時には死にいたることもある
- 無症状でも（症状が消えても）感染力が残っている

詳しくは厚労省HP
梅毒に関するQ&A



妊娠中の梅毒感染は特に危険です

母親だけでなく胎盤を通じて胎児にも感染し、死産や早産になったり、子どもの神経や骨などに異常をきたすことがあります（先天梅毒）。生まれたときに症状がなくても、遅れて症状が出ることもあります。

先天梅毒とは？

梅毒にかかった母親から、おなかの中の赤ちゃんに感染することで起こります。出生時は無症状のこともありますが、生後数か月以内に発疹や骨の異常が出ることもあります。数年後に目の炎症や難聴などの症状が出ることもあります。妊娠の早い段階で感染がわかれば、早期の治療により赤ちゃんへの感染リスクを下げられます。1回の注射で赤ちゃんへの感染を防ぐことができる場合もあります。

定点種別	疾患名	状況	1週(12/29~1/4)		2週(1/5~1/11)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	○	359	16.32	306	12.75
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		6	0.27	10	0.42
	急性呼吸器感染症(ARI)		1108	50.36	1174	48.92
小児科	RSウイルス感染症		2	0.13	5	0.33
	咽頭結膜熱(プール熱)	-	5	0.33	8	0.53
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	14	0.93	40	2.67
	感染性胃腸炎	-	22	1.47	47	3.13
	水痘(みずぼうそう)	-	7	0.47	9	0.60
	手足口病	-	0	0.00	1	0.07
	伝染性紅斑(りんご病)	-	14	0.93	26	1.73
	突発性発しん		1	0.07	9	0.60
	ヘルパンギーナ	-	1	0.07	0	0.00
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	-	0	0.00	1	0.07
眼科	急性出血性結膜炎	-	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	-	1	0.33	8	1.60
基幹	細菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
	無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		2	0.40	3	0.60
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	1	0.20

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警報レベル △:注意報レベル -:警報・注意報レベルなし